

大学文書館へ 行こう

第23回 「クラーク胸像が消えた」

北海道大学大学文書館 井上 高聡



戦前のクラーク胸像と中央講堂

戦時の銅像献納

クラーク胸像は、一九二六年の北海道帝国大学創基五十周年記念事業の一環として、札幌同窓会（農学部同窓会）が計画し、同窓生を中心とした寄附金により設置されました。設置場所は現在と同じ位置です。当時は現在のクラーク会館の北側の中央分離帯がある道路には、中央講堂という、入学式や卒業式などの全学的な式典や講演会・音楽会などを行なうホールと総長室などを備えた建物が建っていました。大学の中心であった中央講堂の入口の脇に位置するクラーク胸像は正にシンボルリックな存在でした。

戦時期、日本の戦況が悪化の一途をたどって物資の欠乏が儘ならなくなると、一九四三年五月二十八日の北海道帝国大学評議会では、銅像等の非常回収が議題となりました。今裕総長が、文部省

は国宝以外のものを戦争遂行のために供出する方針であることを説明した結果、評議会は文部省の指令があれば壮行会等を行なって銅像を供出することを決めました。そして、「青葉先生像」（物理を担当した予科教授・主事青葉萬六を記念し予科図書室に設置）、「佐藤男爵像」（初代総長佐藤昌介の勇退後、中央講堂玄関正面に設置）、「今総長胸像」（医学部長を歴任した当時の今裕総長の遺曆を記念して医学部中庭に設置）、「乃木將軍胸像」（個人が寄附し附属図書館に設置）と共に、クラーク胸像も供出することになりました。六月二十五日付け「北海道新聞」は「ボーイズピアムピシヤスと本道開拓の熱意に燃ゆる当時の農学校生徒を激励した米人クラーク



クラーク胸像不在の台座（1948年8月）
佐藤昌彦農学部助教授と占領軍兵士

の胸像が米英打倒に応召するもの皮肉」と胸像献納を伝えています。翌二十六日、中央講堂前で、五体の銅像に縁のある人々、総長・学部長、学生生徒などが出席し、諏訪神社社司を招いて神式の「銅像献納奉告祭」を実施しました。クラーク胸像を盗み出せ

ところが、クラーク胸像の献納をめぐってはちよっとした事件があったことを、井上泰男文学部教授（西洋史）が、一九六六年二月十日付け「北海道大学新聞」に、「クラーク博士」二題」と題して発表しました。胸像献納当時、予科生だった井上の同期の友人たち数名は、中央講堂に保管してあったクラーク胸像を、「盗み戦争が終るまで彼らの手で守りつづけよう」と計画したけれども、「胸像は予想以上に重く、これらの安全なかくれ家まで運び去ることはできなかつた」、さらに、「翌日、人々は再びもとの台座にクラーク像が毅然としてそびえているのを見出す」と、一時台座の上に戻されたことについて記しています。

この事件の顛末は、井上の回想とはやや異なるようです。二〇一五年三月四〜六日付け「北海道新聞」が「少年よ大志を抱け」

と題しクラーク胸像献納を取り上げた特集記事を連載しました。この中で、「重くて持ち出せなく、（中央講堂の）物置がどこかにぶち込んでおいたんだ」という、クラーク胸像盗み出しに加わった張本人の言を紹介しています。献納の際の大学の調査ではクラーク胸像の重さを三〇〜六〇キログラムと推定しています。重くて中央講堂から盗み出せず、放置したというのが事実のようです。胸像は滞りなく供出され、台座だけが取り残されました。



クラーク胸像再建の記念スタンプ（1948年10月）

クラーク胸像の帰還

クラーク書籍便り Vol.22

6位「同志少女よ」は著者デビュー作で22年本屋大賞受賞作の文庫化。10位「調査する人生」は「人生をかけて、相手の人生を聞く」フィールドワーカーたちの「調査する人生」を語り合う本。著者7人の掲載図書はすべて店の該当棚に常備してきたものだったので、思わず「やったね」と（笑） 社会調査の方法を論じた書という枠を大きく超える「読んでワクワクする本」で、元北大教員石岡文昇氏の章も読みごたえがあります。

クラーク12月・1月一般書ランキング

書名	著者名	出版社	書名	著者名	出版社
1 TOEIC L&R TEST 出る単特急金のフレーズ	TEX 加藤	朝日新聞出版	6 同志少女よ、敵を撃て	逢坂冬馬	早川書房
2 宗教と政治の戦後史	櫻井義秀	朝日新聞出版	7 政治的神学	カール・シュミット	岩波書店
3 民法4	山本敬三	有斐閣	8 香君4	上橋菜穂子	文藝春秋
4 地方消滅2	人口戦略会議	中央公論新社	9 限界の国立大学	朝日新聞「国立大の悲鳴」取材班	朝日新聞出版
5 まったく新しいアカデミック・ライティングの教科書	阿部幸大	光文社	10 調査する人生	岸政彦	岩波書店